

## 2025年1月27日 聖書朝礼

朗読：詩編 139 章 13 節～14 節  
今週の聖句：「わたしは驚くべきものに造り上げられている。」

お話：校長先生

全校の皆さん、おはようございます。

今日は、皆さんが持っている素晴らしい力についてお話ししたいと思います。まず、自分自身の良いところを見つける練習をしてみましょう。人は時に、自分の良いところを見つけるのが難しいと感じることがあります。しかし、それはただ気づいていないだけなのです。

では、新しい方法ではありませんが、少し練習してみましょう。あなたのクラスや友達、あるいは先輩や後輩の中で、尊敬している人や「この人のここが素敵だな」と思う人がいると思います。今、ノートにその人の良いところを単語や簡単な表現で3つ書いてみましょう。例えば、「〇〇さんは笑顔が素敵」「優しい」「努力家」などが挙げられるかもしれません。

書けましたか？次に、自分自身の良いところを3つ書いてみましょう。

どうですか？人のことは簡単に書けるのに、自分のこととなると「自分の良いところ？そんなの思いつかない！」と感じる人もいるかもしれませんね。

しかし、今日の聖書の朗読にもあるように、神さまが丁寧に創られた一人一人だからこそ、まだ気づいていないだけで、皆さんの中にも素晴らしい良いところがたくさんあります。皆さんが思っている以上に、皆さんはずっと素敵な存在であり、多くの可能性を秘めています。

では、それをどうやってもっと自分で実感することができるでしょうか？例えば、本気で何かに取り組むことです。特に毎日繰り返される勉強や部活、掃除、趣味などがその機会になります。ちなみに、2週間後には今年度最後のテストがあります。まずは、全力で勉強に取り組んでみてください。その中で、あなた自身の力を感じられる瞬間があるはずです。

そして、毎日何回か鏡を見る機会があると思います。本当に見てほしいのは、見た目の可愛さだけではありません。鏡の中に映っているのは、皆さんの優しさ、笑顔、努力、思いやりといった、神さまが大切に創られたかけがえのない「あなた自身」です。それらすべてが皆さんを輝かせるのです。

昔々、ある村に一人の農夫がいました。彼は畑を耕す仕事をしていましたが、生活はあまり楽ではなく、「自分なんて、大したことはない」といつも思っていました。

ある日、農夫が畑を掘っていると、古びた壺が出てきました。壺は泥だらけで、見るからに価値がなさそうでした。でも、その壺をよく見てみると、小さく輝く宝石がついていました。農夫はその壺を家に持ち帰り、丁寧に磨いてみることにしました。

するとどうでしょう。壺はどんどん輝きだし、中にはたくさんの宝石が隠されていたのです。その壺はただの「泥だらけの壺」ではなく、村中の誰もが驚くほどの価値ある「宝の壺」だったのです。この「泥だらけの壺」は、私たち自身と似ていると思います。

最初から自分の良さや価値が分かる人なんて、ほとんどいません。しかし、自分をじっくり見つめて丁寧に磨くことで、その中に隠された「宝物」に気づくことができます。

その「磨く」という作業は皆さん次第ですが、日々の努力や自分を大切にすることがその一歩となります。先話した、勉強を頑張ること、友達に優しくすること、不平不満を言わないこと、自分を見つめ直す時間を持つことなどが、それにあたります。今年度最後のテストもまた「自分を磨く」チャンスです。少しでも努力することで、自分の力に気づけるはずです。泥を取るように、少しずつ自分の中の「宝物」を見つけていきましょう。